

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成 4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標		質問項目	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						R6.12月 肯定率
			○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者					4	3	2	1	肯定率	全体肯定率	
2 心の教育	・思いやりと感謝の気持ちを基盤とした支持的風土の醸成	⑦	○私は、仲間(先輩・後輩・友達)のことを思いやり、協力して物事をやり遂げようとしている。 ◎お子さんは、他の人への思いやりや、協力して物事をやり遂げようとする心が育っている。 □本校は、互いの思いやりや、協働する心の育成に努めている。	A	【考察】 各学年の行事や縦割りのグループでの全校行事、あるいは部活動において、多くの生徒にとって温かい人間関係が構築されていることが分かる。ただ、3%の保護者、2%の生徒が「(どちらかと言えば)思わない」と回答している事実が目を向けることが大切である。 【改善方策】 学校行事や部活動以外でも、本校では協働的に学んだり物事を成し遂げる場面を意図的に設定している。場の設定だけではなく、思いやりや感謝、相互理解や寛容の心が着実に養われるよう、各教育活動の工夫・充実に努めていく。	生徒アンケート	◎	59	39	0	2	98	98	98
						保護者アンケート	◎	47	50	3	0	97		100
						教職員アンケート	◎	80	20	0	0	100		100
	・「議論して考えを深める」特別の教科道徳と人権・同和教育の充実	⑧	○私は道徳の授業に真剣に取り組み、自分自身を見つめ直す機会となっている。 ◎双海中は道徳教育に積極的に取り組み、豊かな心が育つよう努めている。 □本校は、道徳の時間を要に様々な場面で道徳性の育成を心掛け、豊かな心を育成している。 ◇双海中は、いろいろな機会をとらえて人権教育や道徳教育など豊かな心の育成に力を入れている。	A	【考察】 大変高い肯定率となっている。道徳科の授業改善、人権・同和教育の取組、掲示物や朝の会・帰りの会の道徳性を高める取組等の成果がでているものと思われる。一方で4%の生徒が「(どちらかといえば)思わない」と回答していることに着目し、改善を図る必要がある。 【改善方策】 引き続き、道徳科の授業の充実を図るとともに、2学期以降は、担任以外の教員が行うローテーション道徳などの取組を進めていく。また、人権・同和教育の視点を核にした道徳科や学級活動の授業改善も、全校体制でさらに進めていくこととしている。加えて、学校行事や学級活動、総合的な学習の時間が、道徳的実践の場として機能するよう、有機的な関連を意識した教育課程の編成を行っていく。	生徒アンケート	◎	59	37	2	2	95	99	96
						保護者アンケート	◎	39	61	0	0	100		100
						教職員アンケート	◎	80	20	0	0	100		100
						地域有識者アンケート	◎	62	39	0	0	100		96
		⑨	○私は、自分自身を大切にしており、今の自分が好きだ。 ◎お子さんは自分自身を大切にしており、自尊感情が育まれている。 □本校は、一人一人のよさを認め、達成感を味わわせ、生徒の自尊感情の育成に努めている。	A	【考察】 保護者、教職員の肯定率と比較すると、生徒の肯定率が低くなっている。全国学力・学習状況調査(質問紙調)においても、自己有用感等の肯定率は県平均よりも低くなっているため、注意が必要である。 【改善方策】 自尊感情を育むという視点を明確に持って、生徒自身に達成感や自己肯定感を味わわせられるように、各教科等の授業場面での工夫・改善を進めていく。自尊感情は、自分自身の達成感及び周囲からの賞賛や肯定的な言葉掛けの両方が必要であると考えられるため、日々の活動の充実と豊かな人間関係の構築の両面の取組を今後も充実させていく。	生徒アンケート	○	42	37	16	5	79	92	79
						保護者アンケート	◎	39	57	4	0	96		100
						教職員アンケート	◎	40	60	0	0	100		100
	⑩	○私は、他の人の人権を尊重し、人に差別的な態度や言動をとっていない。 ◎お子さんは他の人の人権を尊重し、差別的な態度や言動をとらないようにしている。 □本校は、人権・同和教育の視点に立った指導を随時行い、「人権意識」の涵養に努めている。	A	【考察】 保護者、教職員の肯定率が100%であるが、生徒の5%が「どちらかといえば思わない」と回答している。一人ひとりの生徒の心に響く、また、行動につながる人権・同和教育の取組を積み重ねる必要がある。 【改善方策】 双海地区公民館と協働して、1学期には地元出身の画家の方の講演会を行ったり、公民館長から同和問題に関するお話をいただいたりした。2学期は地区別人権・同和教育研究会が本校を会場の一つにして開催されることも契機として、さらに質の高い教育実践を展開できるよう努める。人権・同和问题学習の積み重ねを通して、周囲を啓発し、差別解消へ向けた取組ができるような資質を身に付けさせたい。	生徒アンケート	◎	67	29	5	0	95	98	100	
					保護者アンケート	◎	40	60	0	0	100		100	
					教職員アンケート	◎	80	20	0	0	100		100	

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒44名、保護者30名、地域有識者28名、教職員10名 ※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均